

授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	習志野市立袖ヶ浦東小学校
-----	---------	-----	--------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和3年度全国学力・学習状況調査では、全国平均と比べ、文章の構成や展開を考える問題は平均を大きく上まわった。
- 「書くこと」で、指定された長さの文章で書くことや、段落の意味から二段落に分けて書くこと等に課題が残った。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 「教師自身が一人の読み手として文学教材を読み味わうこと」を研究の基盤に置く。
- 文学教材を通し、自分の読みと他者の読みを比較する「読みの交流」に焦点をあて、交流後に「振り返り」の時間を確保し、「書く」時間を意識的にとり入れることで児童が自分の読みを深める。
- 全学級担任が年間2回以上の検証授業等を積極的に取り組み、教師が互いに見合い議論する場を設定する。

3. 具体的な実践

- 5年生「大造じいさんとがん」では、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラムに沿った単元を構成した。椋鳩十作品を学習材として、やま場のキーセンテンスを入れたポップを書くことを言語活動とし、読みを深めた。
- 授業のまとめに「振り返り」の時間を設定し、授業者が単元の振り返りをまとめる際のキーワードを板書することで、書くことが苦手な児童もまとめることのできる手立てとした。
- 書くことの日常化を図り、文学教材に限らず、説明文や他教科で、また、行事の後などに書く機会を意識的に取り入れた。
- 教師の授業力向上への取り組みとして、ICT 機器を活用した授業や検証授業を実践して互いに見合い、付箋で意見を交換し、話し合いを深めた。
- 全国学力・学習状況調査、PISAの問題を教師が実際に解き、分析した。

4. 成果

- 『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラムに沿った検証授業の実践により、児童の主体的な学びを引き出すことができた。
- 授業のまとめに「振り返り」の時間を設定したことにより、児童が自らの学びを自覚することができた。
- 書くことの日常化を図ることで、児童一人一人の読みや考えの明確化につながった。
- 国語科を中心とした教育雑誌等を教師が多読することで、さまざまな実践を知った。

◆担当指導主事から（葛南教育事務所 指導主事 野崎 真理子）

教員自ら全国学力・学習状況調査の問題を解くなど、組織的に指導力の向上を図った。

結果の分析から見出された「書くこと」の課題解決に向け、本校が長年取り組んできた文学的な文章の「読むこと」の研究成果を基盤としたことや、「書くこと」の活動を日常的に取り入れたことが、書く力の定着に有効に働いた。